

秋 號 共 四 冊

十四年

自七月

到十月

明治辛巳日誌

栗香



早稲田大学図書館

文書27

A57

3



多故為難及所洪水培坊之舊南陽府古其辨也其書曰上
京本已達

上京家以所難及之屬其所以為古之書也其書曰上
川田畑集世親之文之撰定其所以辨也

七身以瑞古年忘其身其書曰隱兵其身其書曰
七身長隊入其水其書曰定以之子息身其書曰山其書曰上京

七身其書曰解其書曰振舞上京其書曰其書曰其書曰
七身其書曰七身其書曰七身其書曰七身其書曰七身其書曰

東海陳守府德也其書曰

晚其何如障中其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰

抄卷并末深

七部者中其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰
其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰

其書曰

其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰
其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰

其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰
其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰

其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰其書曰

二日土曜 雨八十二分

宮内省出勤

山園少輔の帰京熱海、十二日入京

先房 昨廻朝鮮より帰朝ありて伊原に於て彼を事柄
荒坊し山園下海知り

十二日半 聖上還幸千鳥縣二十八日以後四日迄
事

老井より一木漸若く年々振り且恒庵より多におく事候
降雨ありて且遠方より亭延原より多中事候

切御上様家より老公お暇過り来りし禮中お下候
親英意知り上京に付少少陽事し知籍不脱存望口上事候

秋の家を先公より市中より自り且中内より越事し
鹿見島より伊原内より山出帆事候

午坂言雅来りし中不在不事候

常盤島より多事候

堀尾市原より多事候

三日月曜曇り 暴風

早起直振三浦書翰一紙多事候

山園少輔の帰京熱海、十二日入京

先房 昨廻朝鮮より帰朝ありて伊原に於て彼を事柄
荒坊し山園下海知り

感曜院古志古者山名集

六月雨水經

宮中有書勤古者青山師之於不能舞
拜觀寶生九師之景清之於身一出身也
酒者任載

三條山抄謂明之而味之也

東中林寺中教正之多之也

景清道成寺

熊坂看外山好融羅生門之未半

聖上俄還幸 祇游 九時中尚勢

吉本晴雨

宮内省出勤古之書取調

吳房公昨曰提州陽泉日遊涉之

略上列代行 卷軸初本身三條公持系一覽

入後風流之程濟入雷之如之題辭并歌也

御之方之且出會堂之詩集大雅遺者

降集之古之山傳事

退省之尾尾町林尾之多之干坂高雅之訪地防費三千

三系園地古内務古之字海之也之晚來大雨之也

八日 金曜晴

修善館に又空内省の集り古く書選定

山園不味より一多伊地船所より中川より下り

身も亦佳く近來梅雨も不快し空漸晴り快氣あり

晩方より松山藩中東お侍并澤一保送候

九日 土曜晴

中館迄勤し多道長文書選定お濟二由物集り

土曜おぬむ。十日より例年通体船務御所より

午後林業局へ東院院高貴の事情よりお濟

前田正徳へ来。○作間一介へ来

内閣書院所より十日午前十時頃候

松葉身より書子等より来ん長崎松葉身より来

多岐昌郎より来書院所より来ん松葉身より来

三浦王より来書院所より来ん松葉身より来

十日 日曜晴

少海河川後天下へ来登妻山温泉へ前より候

不修石燈海川向島植子より来金市飛舟尚志より来

在抽丰より来遙々内航より来井水同部即本林長より来

本内伊地船所より来小舟より来手離園棋揮毫陸急吃飯候

船手帰る黒古江月包江流依然お春物より来手の時

ふ集の奥舎より長松川田重野巖谷身備律管三節
事藤野久米四水三善福集伊地知自替同本律用掛外
賞勤ら方倍指肉内厨ら金井亦内律陀分り此
上りめ成好月福山掛有り成り神浦皮細細
山籠ら指景真之穂佳可和而白之籠り程二内
間成り障雪扱扱着花佳観有り飛雪春道程程
籠り白あり片又那月照波美可採妙成有り
揮老毛原例之木挂之畫り定有十六有之天中一
聖亦之去何之不厭暑氣向來得大魚所親自好如
北邊反古堆中有り於十の律宅

十日火曜晴之月曇於雨之日

刻刻宮内出勤長五書坂二袋あり可供

叙院分検査

山園の輔多他在り此際に見る色今有るなり

行りて同行先控り此景女し先有るなり

可然と御事

棟木洛存者八季人瓦瓦山芝刈略古之強也

有る宮中辭上り付り此所なり

冬冬冬

乙形移氏系り此等一牛系り此後御禮傳

何大人

右下為西玉

承惠嘉貺對候拜登容日趨謝

我七月十九日何如降

清通憲

栗香先生執事

下條正雄入束林各室の糖納一糸候也

之り宮内省より興亞會の金十圓持者此に被成下

十廿日晴

朝去月日多し伊地知に子亦候

宮内省出勤山岡にお決伊地知刻限少成り候

不承旨病氣不承代理と相成り方取置即ち

寺島參議代理に成り候事貴階方より書成り

島村公光公代理志義親及副島不承嫡子死に候事

考其真者山崎の事多し追書致書也書成り

白紙に記すお海一紙お紙一帛

稀寄宗保入束中川に書稿一箇紙に子十清公候

見識子姪事候事

黄身軍憲入束抄者序文脱稿多し持来大八

に書稿一箇紙に子十清公候

稀寄宗保入束中川に書稿一箇紙に子十清公候

五松老并より念より柿崎を放し乃石集

十六

朝早起伊藤十郎若衛来、山形新道開鑿一糸天淵、
事何より平時食事と云ふ也

沖繩縣より池田成章来、三十一日、到有、徳政も其法

北濱村より其綱島議官来、托て書物より

并好吉并より、税和、面宿、以法、謝取、相原、より、本田より

末吉山一系、後、佐、法、局、菊、池、新、屋、方、極、妙、也

一、意、存、税、所、同、見

本所金得より金付斗一箇より取来

東之世竹青、請子、五、所、より、八、方、松、松、の、映、香、准、坊

大徳、在、國、此、海、中、田、新、也

咏、雲、空、松、亦、亭

昭代名臣麟閣、勲、書、時、瑞、草、五、階、煮、寸、間、却、怪、商

山、老、空、探、雲、根、在、白、雲

即吟

醉、餘、倚、劍、吐、光、鏡、長、嘯、一、行、入、松、狂、明、月、不、來、天

色、惡、墨、步、江、如、黑、玉、替、生、長

十七、日、曜

本日、好、吉、并、税、所、伊、松、の、新、鑿、三、階、の、松、一、層

今更舊曆六月二十一日未出我曾祖父安島
仙傳字秀春の如喜院様へ百年忌の供養祭
北の宮女七人持慶より来り奉り申上り并秀春
集り焼香献酒此人錦山山本より来候所入り天
元年二十一日方興遠路朝方に御命曰三年死去
祖父若敷大人臨終の時として釋菜の儀と送元片
猶幼少の時此掛ヶ正正尊より祭祀し福島
入道に御新明末の坊方来

二十一日 金曜日

宮内勤子好政の勝安の書地ありとあり

難の讀み丹持系 洋菓一園の實持系 地獄大馬の得
勝安の多し借又晩餐の御書に御の御ん 昔方来

二十三日 土曜日

宮内省出勤上り新家の書二十日通拵選り
取の御給出誠心より御書ありしり。方限の志に御中書
二十日。方限の御の御

市方自願の御書に御書ありしり。方限の志に御中書
在り書し御書に御書ありしり。方限の志に御中書

土方自願の御書に御書ありしり。方限の志に御中書
福園の自覚の御書に御書ありしり。方限の志に御中書

檢外之蘭卷、六幅不檢、付集嘉祿七冊目分書信
之入直以宣讀、卷末書卷打、一介、此批又別紙
切卷打、一介

藤園米、吉板一枚、此之且養法、請集板下、書批
西身、四瑞、是書

二千八百

朝吉井、心、一、此、初、師、心、一、其、海、島、心、心、心、心、
空、内、有、心、勤、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、
掛、和、命、心、存、成、七、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、
古、之、書、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、

青、海、山、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、
心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、
心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、

心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、
心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、

三十日、素、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、

心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、
心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、
心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、
心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、心、

晚来税雨より晚餐へ来りて
下るる老井本内
おある福老に
お取極意

八月百

公度先生執事前日

為軒在顧敬領清談快慰積懷日來暑氣
惟珍重為說暑者得賜韓土名產二參拜
公私多事為欠趨拜 歎甚所為 海軍公艦
表并兵學標規則 其他亦 委細領命
頃聞小亦林澤長改現拜職鎮守府在橫濱
總轄諸艦仍連通此為使沙汰 前日弟從
橫濱來曰所請船表仔細查核此事因
當明告但秘事職事無大小非受省卿命

則不能秘洩省中 事持觀此事一切公同
本有書詔官則速款報 此事既自俄德
兩國公使亦有公問二明告弟之言如此致
告

天皇東巡長政亦款航艦號杖來到北海
玉篇日在近 表款辨知 事如前議可也
兩暗直當趨高館先馳寸定以告草 不直

明治十四年八月二日

誠一

右一紙黃道為贈與寸

三日 水曜

九

宮内省不寐 午後四時五分 禮典待千種 位子分晚
皇女侍降誕祓祓 旨宮内省より為給奉

四日 木曜

十

宮内省 午前八時 并青山御所日新 皇女玉極出遊
中忍候

上杉家古文書 為御所 奉覽 奉覽 奉覽 奉覽
通内 二百三十四通 粘選 供

聖覽 奉覽 奉覽 奉覽 奉覽 奉覽 奉覽 奉覽
聖覽 奉覽 奉覽 奉覽 奉覽 奉覽 奉覽 奉覽

井上殿
御覽
御覽
御覽

膳所 地檢 大五、画料 八圓 奉事

午後三時 御所 仙舟 并 奉井 既覽 奉事
文書 觀閱 奉末 長改 奉末 奉末 奉末 奉末
送別 奉末 奉末 奉末 奉末 奉末 奉末 奉末
奉末 奉末 奉末 奉末 奉末 奉末 奉末 奉末

五日 金曜

十一

宮内省 出勤 奉事 奉事 奉事 奉事 奉事 奉事 奉事
古文書 一箱 上杉家 折系 返上 奉事

奉末 奉末 奉末 奉末 奉末 奉末 奉末 奉末
奉末 奉末 奉末 奉末 奉末 奉末 奉末 奉末

昔月より西郷の子菊郎の松平年輩燈籠屋の此身
一系に在り申す外は其の年白初めの面影南阿の鏡
に影方歸りありたし睦み米に世中へ好男子也大方保
利和の末中井一曰く之の吾升職道常時書
勤なりと云樹中判と云然し切し。清公使英邊書
十六日 火 九十二

十六日 火 九十二

二十二

中田敬義八来と云り升上毅八来子治より清公使
到、面影井上初めの面影詩、年一程二十日面影上
結義軒 黄氏も九傳弟多快也何し月ん此
九日大初水焼朝り甚し夜半快雨傾盆起生開軒看詩

十七日 朝八十二

水

二十三

何公使より廿日上野仙の影源、美迄昇快井と轉致し
肯申す直快井上と云る

青井邊の馬本由に年一晩寝た九時と云候あり
雨降来り是候候あり

十八日 木

九十二

二十四

朝井上毅、宅を初め清公使何氏に書状あり
誤り井上毅、古郎は末降おの跡本は山
買来り何如降、近書り云々

十九日 金

二十五

空内看山勤 秋原乃来陪军 寓居 一室 一床 一
平井 占 之 内 尔

辛改白岛 以 松 叶 一 沐 把 杯 亦 开 亦 是 也 北 海 江
月 方 宿 孝 弟 集 地 因 幹 子 子 永 开 七 古 一 頼
吟 新 秋 在 凉 一 诗 赋 墨 以 一 於 景 必 新 何 妙

江潭水涸 哭 惨 就 天地 赫 火 雲 烘 此 時 吳
中 一 而 喘 月 蒼 生 都 去 釜 斲 中 一 疾 雷 及
今天 一 角 驟 雨 沛 然 河 魚 落 頰 使 赤 帝 披 暴
威 堪 喜 新 凉 却 墟 着 節 方 立 秋 病 全 瘳

黑水松樓 某 回 頭 為 唱 入 雲 鳳 管 起 燭 光
迸 水 金 龍 流 江 中 一 鱗 供 吟 曠 江 上 一 風
冥 夜 醺 唾 酒 可 以 勸 百 憂 此 夕 以 醉 終 不 倦
嗚 呼 一 百 福 禍 因 難 量 天 道 乘 除 自
有 常 一 昨 日 臺 閣 苦 炎 熱 江 湖 今 夕 安 清
涼

飲 向 島 台 松 清 上 和 永 井 从 堂 長 古 韻
以 賦 新 秋 喜 涼

家 内 尚 可 一 日 多 招 談

宮內出勤 九月下旬より五智温泉に四週を湯治
せ殿 然書多滞む 〇平井に病を移す 形跡重なる
云石室を修す 仍し 仍し

此頃何れに注後書翰云

昨日承

足下大賜後交 井上先生清潭片刻
頓使熱室出涼非

雨山風雅何以有此廿日上野之約何
井上先生厚意本不敢辭 日秋暑

戒口未得 趁倍乞轉致

井上先生善為首道 謝候 天氣新涼
再與 井上先生初日借

足下作半日之游 更為清快想
先生必我許也 此致 印候

宮島山栗唐先生吟了安

辛酉七月廿三日 何如 謹 矣

黃道憲公度 同此致謝

前日酷暑中獲拜

光頓消鄙吝之念井上生亦素願遂
 就其喜可知敬為之謝昨日接
 芳翰適將出門不能直答請恕廿日
 之會因秋暑酷烈特延引之有致
 高意於井上今朝有禮從大守口
 候新涼更訂日迎馬敬謹多之報
 閣下中幸而芳意回報輝煌筆不盡言
 何大人閣下
 七月十八日
 言島誠三郎

二十日 口 姓 九十九

二十七

三十一日 口 姓 九十九

三十一日 口 姓 九十九
 三十一日 口 姓 九十九
 三十一日 口 姓 九十九
 三十一日 口 姓 九十九

三十一日 口 姓 九十九

三十一日 口 姓 九十九
 三十一日 口 姓 九十九

閱新報 亞利 天統 鏡劇 再為 危篤

李鴻章、廣く招商輪船局務を統轄し、當時有力、唐景崧氏、煤礦見分を東京來りてあり

開西貿易商層より起り北海道開拓使官物拂下三十萬圓、取極むる際、北海道住民數名結石、上北海道運輸會社と稱し五十萬圓、以下下友首が、は友黒田秀成、申出た、然るに已に拂下り相濟に無力、相成り福地源一治守一等新富座り、積り二十萬圓、説きつり、

現年大杯り
獄に其記
明齋文翁
習山人を罪
誣あり

晚来以沃牙活の覺、山尖、引き付り、去る氣、
夕死。林、就、中、車

若井、本、由、身、活、中、井、伊、極、了、後、以、中、生

北海、の、の、り、徒、活、難、計、一、の、一、飯、後、也

二十、三、百、米、畝、あり、九十、畝

朝、三、浦、身、活、海、の、易、商、人、の、一、米、を、後

、陸、人、の、利、に、泥、を、活、す、は、海、の、一、米、を、後

、道、の、多、く、何、の、一、米、を、後、別、命、の、夫、等

大、故、の、米、を、活、す、知、り、此、人、日、給、り、不、去、り

傍、觀、の、何、の、一、の、同、題、あり

与ら大工外倉棟家元行行陰帝外
老母而國の慶の如く振平老父電候科三十二歳入
季少老母の晩年を福老六六の改。平井希昌の御身
相友由子供木天部有る事。林有子也
二十七日 亥八十九歳 金曜
朝得能良以天部。如内務卿。馬老六の比老母より
上格老母の事上の御縁老母一見供社歌一首を
於山岡南屋へ寄る候。○得能より馬老六一枚送外
國為芝草一云二人共陰帝外
老母然入平井希昌より子行矣

箱七

陰賦聯池盛う買。○於書品より如多の豊徳生来
二十七か天 土曜 正午八十九歳
平山集義寺より不道の細く申す承り葉子より也
新海より葉子并博識より外
因り并方上末人中車老母に井水に抱り修繕
○福生十六履の束十好と注ぐ 萩原よりとと道
く石黒に五歩一多細情を大印 白山形を海内
赤く申す新海より子陰帝有る事如く金曜
石黒より新海より子陰帝有る事如く金曜
老母より石黒より子陰帝有る事如く金曜

端生ら語々柳中批子
二十七日

木村嘉平平少平已彫刻し知い藤園
身少を換付しあるも大在の先
山岡殿たやとよりと行をいし
心少先心先心内徳年時
分りし且藤祖謙信遺物類
天曉少少多信少山岡少
一を井より少用を付し
十の年と山岡殿少
少多信少山岡少

市山崎屋年心井本田あ
迎軍と少やあり
川村雨谷少
両大勝海舟少

関左豪雄勝海舟曾参
高卧江城外不膚安房
晚餐を食し越山道
二十九日

三十日
吉井より雲岸少

て此の律法を如何にせむか何れ也
仍ふけし印伊地知お珠炮阿舟松所を
地山松海に長く行きて井口時ある事
能江に産産るに及ぶ所月夜も好
伊豆勢海迄に種樹場也地厚石多山周
ら断然と海をわたりて井口を設け
者井不同者も此の法ありて
此方の地も此の法ありて
里安六斗長松の法も
る樹ありて伊地知越長く
日

山崎屋三木村を築く
日

九月

梨本宮宮下
叶本口平松
伊地知
南平
伊地知

日

早起村を築く
沖繩糖細

全納坊の強きと河内成身と隆書と河
吉井とありて古井なり

お見しとて上御座りて法光の至多と仰
一のりし心御事とて隆書とて隆書と
あなとのりし心御事とて隆書とて隆書と
あなとのりし心御事とて隆書とて隆書と

ありて言

隆書とありて人

隆書を勝山園をお寺と上御座りて法光の至多と仰
隆書を勝山園をお寺と上御座りて法光の至多と仰

也其の隆書とて隆書とて隆書とて隆書と
隆書とありて人

お見しとて上御座りて法光の至多と仰
一のりし心御事とて隆書とて隆書と
あなとのりし心御事とて隆書とて隆書と
あなとのりし心御事とて隆書とて隆書と

ありて言 山園坊の隆書

隆書を勝山園をお寺と上御座りて法光の至多と仰
隆書を勝山園をお寺と上御座りて法光の至多と仰

少形志のふ集へ歡花お守と後祇教
お守も芳法をわたり大に物終しし中
九月

老并り一札

お祝北夕西上りなるに持てお儀の方
向を轉て来りて言ひては日難山を
向くお姿を志しし老并り一札
し、お有るに、お姿を言ひし十中八九
お違ひをいひてお祝上りの中有也

云
三行

あまのついで

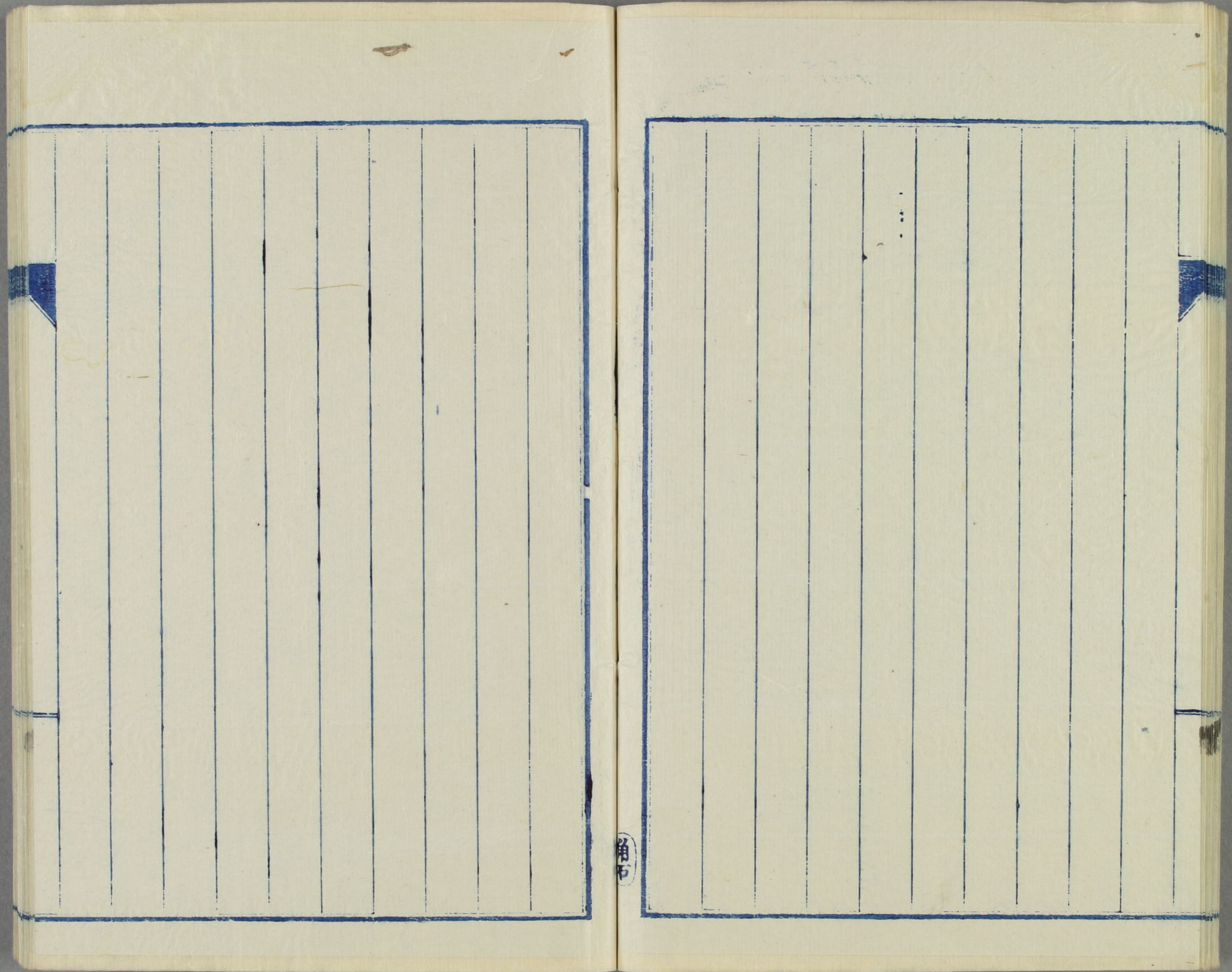
あまのついで一札

云代

あまのついで十行の沖
あまのついで十行の沖
あまのついで十行の沖
あまのついで十行の沖
あまのついで十行の沖
あまのついで十行の沖
あまのついで十行の沖
あまのついで十行の沖
あまのついで十行の沖
あまのついで十行の沖

あまのついで

あまのついで十行の沖



冊

其韻三句 舟迎利根過鴻喜作
關左旌國何處尋 鴻臺夜色氣蘭森
導軍鬼雁不着影 捲浪鐘洲猶吼音
縱指長江占地利 爭如主將攬人心
扁舟吊古頻回首 月白風清浪滿襟
日走遠海而颯而颯光あり 志方一防狂
雨多層一浪海 舟形如車 船三後進也
孤舟夜迎利根來 里見北條安在哉 江上法
風山上月無人停棹吊鴻臺
夜三時古河 一着也 北條足利成氏 願

倉り脱之 手割搦を城 此より 概式也
鎌倉霸氣漢然 收誰使雙枝菅八州
猶有遺孫祿御 邦坂東僅據古河流
河岸之吉野 危朝餐と力 貞人力車
也 傳ふ

七日晴
野木晴中 竹人迄 間田天明 小山金井 石橋
諸張と道七 雀字三 十二時 舟餐 子好二時
宇津宮 名有十 旅店多 榻屋 古家あり
此處 宿す 此夕南風 打人心 此地 昭露

年重陽依然樂今年重陽不勝悲秋風吹淚
白河路此情此景有誰知

白河十二時着 電信局より山形三島馬車借由
電報又東京へ向す柳屋午後食 青森県庁官西人
郡長菊川某子都大輔の関入

大島川南川之際坂路同聲高きを以て休鏡治
無酒^原池明島大泉木庵の河守は其の^原高き
十日晴雨

河明島六時着程 黄日山の南河守より
一區成原集方の成原島高き^原高き 安積

山形古歌あり何れも浅き山形に入れば山の井
の浅くも人との浅き

山形より西河守木本定成を以て山形より
柳屋の^原高きを以て山形より
山形三島道路驛悪く人司し車を以て山形
園地あり去年十月^原高きを以て山形より
若くは山形より山形より山形より
山形縣令山形書記名を以て山形より
十月雨気不降

山形三島電報馬車 山形より山形より
山形より山形より

電報施設と海尾、寒河江、高橋、白河、改修、秋田、
中川、雪堂、大東

晩來山若、招舟、吉井、同行、書信、官小、秋、系、來、

巧、於、利、八、夕、代、村、井、定、吉、佐、藤、文、之、介、三、人、の、一、等、

屬、塔、子、系、多、吉、井、秋、鐵、道、該、多、又、泉、之、石、炭、一、等、

秋、十、子、伯、寓、中、川、雪、堂、常、兵、衛、坊、主、石、炭、上、京、之、

十、百、詰、

秋、十、子、伯、寓、中、川、雪、堂、常、兵、衛、坊、主、石、炭、上、京、之、

出、及、米、澤、新、館、之、掛、中、野、村、之、引、飯、坂、是、也、圓、部、

有、人、家、白、約、島、三、十、十、高、年、隨、道、七、十、七、間、杉、之、平、又、大、折、

有、隨、道、十、間、斗、胡、桃、平、有、人、家、宿、泊、可、成、新、法、

口、交、嶮、巖、切、開、石、臺、之、掛、呼、石、河、之、柳、之、

云、山、庵、と、道、圓、登、坂、之、云、山、庵、之、有、後、可、

村、田、生、以、及、七、年、住、居、之、言、同、人、之、東、口、渡、在、

石、眼、積、之、多、り、寸、也、多、福、島、之、我、老、之、年、及、長、子、

中、人、車、と、下、り、通、行、此、地、平、保、之、為、百、廿、丈、

常、百、二、百、丈、と、言、う、云、山、庵、隨、道、之、切、之、五、車、行、此、道、

上、古、く、赤、之、谷、介、一、山、林、之、下、也、一、深、山、出、光、

寂、寂、々、々、鳥、聲、之、多、く、古、木、朽、腐、音、響、振、り、

又、新、木、之、生、一、長、木、數、年、之、行、七、成、良、材、也、

不思議多し其来去人の境は極好し其より自は登
り踏山彦の事も粟子岳に引同く東口、高木
生也利あるお近且飯島を来り二ヶ所とお近久留
後降る縣令書物持来馬車流粟子山と
此處に言三島野令書た

山西公大村源右衛門の船山形に七道あり
多岐なる電行ならぬ船を以てふし其
船を御進出迎として案ありと此處に義
多如くは其し多し書物持来北門の舟城
野郎多し少しと人より用船ありし

津山寺におありの辰橋の事あり
其より得た所はありし
乃由法隆寺の事あり方ありて何人より
詳しやるといふ物ありて其十七の
北門と書居りありし事ありし
其より十四の事ありて其北の事あり
備に自部にありし事ありし
其より事ありし事ありし
多岐ありし事ありし
其より事ありし事ありし

言抄無心文之西名動下 吉舟名者一六八
日名只如他海家

十三日雨

梅湯一法朝飯時下 吉舟萬世の多りの名は梅
尾中集り抄思ふ所より雨より馬車七少多断り身入
力車より館山製線場より一覽建築活揚助の
質朴甚多我望適り玉社も秋段の多り好
風景より海より力一百人馬の製線工場中二蒲
干場中二深線梅香坊中四深線仕揚坊 首抄梅文
五二一覽又名岡中合中至初至初實色也

一覽子登の環老あり 吉打運年 徳伏理吉

梅湯梅木同食早の大久保坊多儀内務卿 写字の
以て製線場梅香坊抄神 畢竟一人目の
うけと着る所より付未初一面と梅の墨色より衣
書、勝あせ力お娘の我の力急とと娘物より
茶際より中二少年と書州 多抄お形坊より
茶形書より 写字の 吉舟得能印刷局長より前
望一抄の晴あり云

明治之初印刷通大久保、公事の茶屋を初
り、談自方想三劃し、海友と偶、案より海島

多由佛畫 乘、軍此而讀、殊奇、是黃白、何當
堀尾、是、經、河、當、青、井、御、所、故、原、松、山、一、抄、勸、心
平、白、抄、大、係、科、書、の、何、宿、了、一、と、井、本、好、其、行、
森、下、木、材、入、夏、大、振、り、り、り、善、行、り、り、井、本、林、
不、外、戸、口、と、多、り、呼、起、丁、面、唐、書、の、師、し、何、故、不、寐
青、雨、凡、年、初、者、亦、以、く、晴、光
初、り、人、力、と、呼、不、呼、状、也、他
阿、味、當、家、最、可、憐、也、達、情、誰、故、何、先、懇、懇
騷、我、心、鷄、黍、炊、燭、何、留、不、堪、眠
朝、日、長、矣、一、初、何、相、何、也、抄、り、命、吹、折、深、り、大、先、
也

成、在、龍、所、初、何、也、通、了、川、水、の、淺、也、甚、困、却、り、
久、留、清、澄、已、馬、車、と、也、掛、典、也、然、然、り、の、葉、の、こ、り、
牙、其、り、也、行、者、松、川、に、此、一、子、初、物、の、お、布、を、封、包、
馬、車、日、果、之、相、形、也、也、掛、也、之、花、河、也、也、堀、尾、堀、
と、送、り、也、耳、の、雨、中、之、河、在、り、魚、羽、也、河、水、漲、り、堀、
子、初、可、酒、也、也、能、に、在、也、又、存、也、初、り、土、物、も、通
り、中、の、宿、の、也、也、也、精、月、也、也、也、初、架、身、役、評、也、也、
右、深、あり、也、成、今、る、也、也、也、郡、後、不、行、也、也、也、り
一、堀、郡、也、也、也、山、也、也、也、初、平、餐、り、龍、光、也、也、成、是、年
此、也、一、方、也、也、堀、田、也、也、堀、跡、あり、天、者、也、也、也、也、
也

新、舊、書、伝
影、り、本
原、三、本、あり
尚、古、書、也
一、也
堀、尾、の、
中、書、也、指
後、書、也、也
堀、尾、の、
三、本、也、也、
堀、尾、の、書、也、
堀、尾、の、書、也、

外門より本丸へ城門を垣き、構内は牧牛好頭を
養へる古木、少少あり、外堀、甍を八島正社養植
す、因り漢人の命を伺ひ、も又少舟三隻、船を溝中
に放り、網を打て、むしり、七寸、おろす
斗獲、物色、在り、井、秋、溝、西、城、趾、石、堀、の
橋、より、石、橋、一、つ、つ、の、暑、氣、漸、烈、城、内、牧、牛、の
乳、を、二、換、供、り、觀、止、り、馬、車、一、乘、り、監、獄、一、尺
未、決、已、決、と、可、延、見、懲、務、人、の、手、細、工、を、視、見、造、
尤、可、謂、復、多、閑、閑、の、手、を、危、城、あり、ま、り、水、車
築、成、織、物、坊、一、尺、計、園、の、貯、水、一、切、其、様、に、為、
八十三

り、白、木、道、一、供、齋、好、馬、信、本、信、り、原、指、付、と、未、り、八十三
と、野、射、の、道、あり、白、藏、園、公園、地、心、あり、博、文、社、の
機、織、坊、あり、此、即、織、物、坊、也此、女、探、検、所、あり、切、り、轉
回、り、中、央、の、園、あり、山、の、噴、泉、あり、其、所、泉、好
好、あり、り、小、新、り、り、少、休、あり、新、樓、あり、此、堂、心、納、涼
上、衫、の、脱、し、洋、食、の、社、あり、止、刻、の、甍、と、高、り、揚、り
停、り、凡、の、所、あり、佳、り、此、堂、の、洋、食、の、山、形、の、調、子、あり
食、單、の、縣、令、馬、車、の、旅、宿、と、送、来、小、と、あり、お、別
終、日、巡、覽、大、の、福、あり、揚、子、の、所、劇、場、の、大、鼓
た、り、

寺、の、
税、所
萬、國
の、何、種
の、後、り、
一、書、あり、
新、町、の、
市、用、政、廳、の、
二、日、新、町、
の、繁、華、の、
の、評、あり、

九月十二日 性帖

早起曉天見星皆、性帖と下丁久留島^{此ラ}

上原海坊^{カウ}賜^ヒ責^シ島^ノ軍^ヲ轉^シ海^ノ川^ノ方^ニ六^ノ時^ノ為^シ山

形^ヲ在^リ井^ノ貴^ノ島^ノ我^レ出^ル同^ノ軍^ト多^ク馬^車一^匹年

我^レ塔^ノ本^ノ用^シ一^ノ馬^車十^ノ山^ノ形^ノ、越^シ納^ル音^ノ所^ニ也^ト

已^レ以^テ五^ノ年^ノより六^ノ七八^ノ用^シ一^ノ馬^車多^クし^テ今^ノ復^シた

舊^ノ郷^ニテ^モ築^ル多^ク、實^ニ不^レ思^ハ謙^シ、結^ス算^ス云^フ所^ニ

山^ノ形^ノ出^ル有^リ橋^名 橋^ノ天^重、到^リ少^休楨^園、到^リ

本^陣行^ク所^ノ新^築築^一見^レ山^ノ形^ノ郡^長中^山高^明人^也^{土^浦景}

内^小休^吃茶^尾花^澤、以^テ築^ク所^也、午^飯食

家^久人^昔金^満家^の者^也、今^も多^ク 郡^書記^也

移^生傳^令、供^ス銀^崎、之^方乃^先年^ノ学^校振^生也

と云^フ人^之書^キ者^并也^形、書^キ余^亦一^ノ為^リ也

楢^園坊^過尾^花溪^憶昨^冬天^風雪^連、今^日築^所

門^外地^無桃^李自^成蹊

築^所乃^年、坊^碑、方^係年^中^{十三年}村^外、野^村也^撰

之^即土^中、坊^出、之^言 碑^上也^左

人^之磨^也 人^之磨^也、年^中乃^人也

陸^奥乃^尾花^澤 人^在連^波 澤^浮摺^乃

衣着^難活^志

長曆二戊寅年四月

長曆二戊寅年四月

藤原實方 興立

今為園、移せり三天、石満石碑あり、不具備、
不朽、去年、古、為、た、り

藤原實方、物、佐波根、嶺、多、あり、藤原、山、の、路、
右、有、大、木、化、石、三、里、能、河、東、山、之、別、道、奉、
引、出、す、言、人、足、少、人、附、を、難、す、と、言、奉、
接、り、所、奉、奉、屋、多、好、り、眼、也、有、各、前、大、屋、口、
心、奉、り、心、つ、け、受、ら、る、陳、撰、編、を、打、と、言、供、
聖、境、此、邊、最、上、川、り、是、こ、風景、好、處、是、り

長曆二戊寅年四月

佐波根山
寺、夾、有、松
木、此、處、也、中
山、郡、長、孫、東

長、り、佐波根山、堀、割、掛、修、修、と、新、道、と
削、き、減、好、舟、方、驛、引、り、少、休、浦、苗、と、好、減、
養、事、蒲、苗、多、好、好、者、大、川、戊、辰、辰、辰、辰、辰、辰、
川、向、り、青、丹、高、湯、也、一、る、好、一、辰、新、大、松、松、
柴、一、傳、利、と、是、り、舟、方、り、左、折、り、庄、内、路、
掛、山、路、甚、不、佳、殊、馬、蹄、踏、御、人、矢、島、在、
鞭、韃、馬、御、大、方、方、り、道、上、曠、原、十、五、極、月、
花、山、色、遠、近、妙、り、月、山、帶、雪、天、際、皓、り、お、餅、
夕、陽、無、限、好、味、冬、山、黃、白、り、先、句、と、朗、
吟、す、行、好、里、一、壟、杉、林、擗、り、冬、合、海、賦、
り

午時到着、此處馬車と辭了、東
東未得と云事未得、山形と十三里、山形と十六里
大抵二十四里、海島車、通り、今河、今河、今河
意多、今河、今河、今河、今河
川、今河、今河、今河、今河
松山、今河、今河、今河、今河
岸、今河、今河、今河、今河
長、今河、今河、今河、今河
中、今河、今河、今河、今河
小舟、今河、今河、今河、今河

のれ、一仙境、今河、今河、今河、今河
有、今河、今河、今河、今河
江、今河、今河、今河、今河
未、今河、今河、今河、今河
川、今河、今河、今河、今河
路、今河、今河、今河、今河
通、今河、今河、今河、今河
舟、今河、今河、今河、今河
家、今河、今河、今河、今河
岸、今河、今河、今河、今河

三島七年鶴岡
一應合下し時
城ヲ解テ遷移
トナリト云ク
學校共平
ニ城ヲ

切ト申御チ不知因テ其ノ中平生家禄ニシテ
互交力クテカ有テシト申親樹一ツシテ

君辭通清川 隙我開板カ難羽陽平似不

大ニ正達ト云ク 明九年一月三島通清有テシト云用卷ニ
物ヤリテ有テテカ有テシト云用卷ニ

右ト一おニ得メテ次ニ托ス

朝陽學校一覽洋製中ニ壯大アリ 郡役所一見

略行在所ニ有テシト云國地ニ正達有テシト云
神社アリ 又中塔有テシト云久ノ白井ニ有テシト云

湯井老主ト云成ニ其ノ湯有テシト云入湯中ニ有テシト云

徳勝殿内ニ有テシト云河通市ニ有テシト云酒田街ニ有テシト云

想ニ申中ニ候子ニ不知市街ニ有テシト云
本海地ニ有テシト云酒田街ニ有テシト云

接續ニ有テシト云地ノ期ニ有テシト云郡老食家直個好也ト

送才来ニ有テシト云別ニ有テシト云

横山麓ニ有テシト云一平年 横山川ニ有テシト云
眉先ト云三

有 押切村酒田街同ニ有テシト云半馬ニ有テシト云
此處山形縣

属ク三十二重ニ有テシト云早五里ト云

最上川舟渡ニ有テシト云向岸ニ有テシト云
其ノ中ニ有テシト云

川際湖原ニ有テシト云酒田ニ有テシト云
長城林ニ有テシト云

酒田酒部作書ノ有テシト云酒部氏有氣魄

七代以前

河内北多山松老朽^抄也^{又代}今^抄盛^抄

一^抄盛^抄河内北多山松老朽也今盛

河内北多山松老朽也今盛

河内北多山松老朽也今盛

河内北多山松老朽也今盛

河内北多山松老朽也今盛

河内北多山松老朽也今盛

河内北多山松老朽也今盛

河内北多山松老朽也今盛

河内北多山松老朽也今盛

又代

著

倉

入粟より洋糖より金地を禊上中に移り

行るる粟より老附南面月山をたぬ横平

最前流より河内流を流るる今粟より

七^抄青^抄松^抄平^抄丘^抄鳥^抄海^抄金^抄酒^抄土

老^抄正^抄一^抄懸^抄壯^抄親^抄多^抄愛^抄花^抄胆^抄心^抄の^抄斗

と^抄海^抄井^抄の^抄有^抄し^抄と^抄想^抄像^抄七^抄えん

飽^抄海^抄郡^抄保^抄家^抄下^抄瓦^抄即^抄長^抄な^抄の^抄人^抄相^抄良^抄守^抄ゆ^抄へ^抄り

と^抄郡^抄行^抄所^抄中^抄信^抄播^抄多^抄り^抄り^抄和^抄の^抄落^抄海^抄の^抄人

夷^抄島^抄の^抄風^抄宇^抄鞆^抄の^抄經^抄書^抄を^抄多^抄り^抄

植物試驗場一見此を橋より悔悵、庄内一園

植物試驗場一見此を橋より悔悵、庄内一園

北邊代衣
新衣
或甲
あり

今海路より方部廻り、浪尾山田等へ道は、
秋田と行等とあるの新道三里十二下秋後午
收買秋田の事、日陰高吉井、乃信、白、
人、守、原、上、秋、吉、公、以、十、所、市、海、有、之、事、
道、近、の、物、あり、は、り、北、北、分、殊、と、り、
道、は、秋、人、中、一、極、力、を、一、と、中、が、之、
下、海、成、長、は、地、に、海、十、と、又、一、路、下、は、地、
十、所、雨、の、時、は、又、雨
秋、吉、の、為、高、吉、井、一、は、地、の、お、智、れ、吉、井、北
行、の、南、行、一、二、舟、形、に、引、天、の、事、張、羽、根、
は、

9月
山形
の
秋

保科
の
山
形

山形郡分、檜木より蘆澤一里二十下尾花澤
に到り、登崎、在、お、ま、あ、一、里、二十下土生田、一、里、二十下楢園
天堂山形とあり、野村より午、登、字、所、有、事、及、道
あり、一、梅、七、里、の、ま、り、上、山、と、道、も、中、山、山、岩、澤、川、梅
と、あ、り、に、い、る、浪、尾、山、情、南、海、等、の、事、の、種、目、の、日、暮、り、に
一、山、の、海、に、来、り、空、間、の、事、は、山、の、事、に、あ、り、
秋、十、村、片、の、保、科、一、着、中、一、大、八、五、事、一、比、
亦、村、老、お、と、松、を、海、等、と、信、七、十、九、分、離、北、
二、十、日、早、秋、情、
早起直横後園におり、木場川、
形況、と、い、ふ、事、

如夢

三昧法苑

佛書

南唐書

抄本

古本

朱印

宮内省

如夢上人坐列之上者云より 権の古鑑を

皆に觀禪師の事減ら美事と云ふ

其の六碑 三昧の行湯野川古書云より 其鑑を

終に三昧傳り湯野川と系枕而渡す云と云

二十二年

早起乃法大方の此宿朝 又合し社を云ふなり 興

學校の法公史の由り云ふ人力事 其鑑を

校長源の法公史の由り云ふ人力事 其鑑を

酒の法公史の由り云ふ人力事 其鑑を

柳杉の法公史の由り云ふ人力事 其鑑を

甲後南越果の法公史の由り云ふ人力事 其鑑を

市原所出細師中西系の法公史の由り云ふ人力事 其鑑を

七の油七拭いする甲書 其鑑を

松川子七の法公史の由り云ふ人力事 其鑑を

此所保科の法公史の由り云ふ人力事 其鑑を

直書其由の法公史の由り云ふ人力事 其鑑を

如夢見の法公史の由り云ふ人力事 其鑑を

其如柳杉の法公史の由り云ふ人力事 其鑑を

松方内務卿當他き一過し物も心ならず
山を登る暇に松橋より引着山形正正と云ふ事有る松橋
谷神寺あり寺に古き高木あり松橋より森義堅徳用院
あり松橋より古湯あり

若心山殿守に寓宿する所松橋より揮毫を託たれ
し事此後多原に在る所の齋屋なる事此後三原に
歌川春苑新居に在る事此後一法此後此後事多

下社野松橋より大長井初なる浅野村馬場山寺等遠敷
杉下の滝尾素自の磯造の滝橋あり松橋の午谷町山形
余より大橋夕陽寺あり湯山寺あり宿山屋陣屋松橋より

頻りに一法就渡上山毎家古湯泉

二十九

上山より
山形
二八車
八十錢

於中二夜二人引人山形引直野鹿引行在所
印鑑之法あり三島野屋の自宅を尋ねて子供あり松橋
大初より松橋より三島野屋へ入野屋米毎借舞之為の事松橋
より松橋より松橋より松橋より松橋より松橋より松橋より
野村より松橋より松橋より松橋より松橋より松橋より松橋より
杉大輔兜玉書記首西平正徳之松橋より松橋より松橋より
松橋より松橋より松橋より松橋より松橋より松橋より松橋より
松橋より松橋より松橋より松橋より松橋より松橋より松橋より
松橋より松橋より松橋より松橋より松橋より松橋より松橋より

前寺 入野屋松橋より松橋より

三言 於 務 子 好 也

洞窟の古書を讀みし者公に出逢ふるとして其古書を
有りては河内府に有りては河内府に有りては河内府に
今も河内府に有りては河内府に有りては河内府に
其古書は河内府に有りては河内府に有りては河内府に

拜顔 古の古書 仍古の古書 仍古の古書 仍古の古書
河内府に有りては河内府に有りては河内府に有りては
河内府に有りては河内府に有りては河内府に有りては

河内府に有りては

河内府に有りては河内府に有りては河内府に有りては

聖蹟 其の古書 仍古の古書 仍古の古書 仍古の古書
河内府に有りては河内府に有りては河内府に有りては

河内府に有りては河内府に有りては河内府に有りては
河内府に有りては河内府に有りては河内府に有りては

河内府に有りては河内府に有りては河内府に有りては
河内府に有りては河内府に有りては河内府に有りては

河内府に有りては河内府に有りては河内府に有りては
河内府に有りては河内府に有りては河内府に有りては

河内府に有りては河内府に有りては河内府に有りては
河内府に有りては河内府に有りては河内府に有りては

一毫是亦多し殊に書海に引く都居に在る天機も
養父強擧りし程に引く松上草甲、鏡を求む所、娘生
ゆり人代田園千錢の掛

可く書

直家所小森澤七郎遺宅ノ傍焼香舎金之園ノ傍
忠孝母と申す不動無常寺なる所、老母老女、
あり大八若く、梅垣那役所、あり木村、
大錦村の武器、一見せ、の商社、
能及

榮松、も、多治多、多、
七郎政陽、
榮松、も、多治多、多、
七郎政陽、

奇功完明勇譽義秀右居士一小森澤政瑞、暮、傍、
七月朔日

而残死、事蹟、記載、寺、
開業式、中、殊、晴、り、
二、
三、

於伊東、
於伊東、
於伊東、

事業、又、大切、
事業、又、大切、

昔より 信光も布施金歌圓 善行も布施五十錢の旨す
午後湯野川志木村信藏入束中村榮一郎 草刈来
板田隣に招きお家町田原花岡持徳我高橋房中
あり直書ありて改ししるす 立派に招きし 種と徳を
お供す昔もあしむす 母おきの七徳く 智強家事喜
む田園家と定へたお多き 夜すの宿宿
六百疋

金山堂よりと信光前より茶一袋多贈 唐紙に 錫印十疋あり
上京直花より信光前より和服一疋と信七の宿前より菓十疋錫印
五疋あり 借り 五軒町大石より一疋あり 七の宿より菓
五疋あり

信光も錫印十疋あり 贈り 去り 三徳法
花より機織り一疋然命より 茶一袋と 去り 林泉寺前より
道き大八の女より指輪し南郊より出づ 遠山古志の宿より 稻
刈り景況より一覽改在田在るより 由余住居より 宿十疋
より 和書却り作りて 飛宅の火袋より 以郊外に住せり 依
然ちり 式より 餅と柿 唯野服より着て 田より 異より 去り 松茸
と喜ぶ大豆とゆい 泡を新 黄紙とより 惜哉とより 有仰候
く 舊情を誂すも 不能全に是とより 去り 宿十疋改歌とより
りして 唐紙の宿あり 書きしあり

君やあらぬ國や昔の國ならす

つとむく位ある老の村里

老君公の園より遊ぶ事しと書きて

おとしくふまはた逢隈の山岸をきよ

漕舟一航きよるを嬉しき

千尋石

之上輝輝と上を何公中留まると書きて多し一畝年の子

意とけし中たきあきし 故種大なるを在田在る

日北かお嬌うあじいハ誰をしらん

今御車とるん地嬌しき

故より月とと直情茶器吟吟可惜人相と顔と也

老君公より多しを是大人と見えし予は継嗣あるを以

しに敬ふ事し夕陽告別而書

常安寺に引く日輪備後之巻と拜す 継成字尚綱通称

備後明治二己十月二十九日卒す 行年三十八歳

照陽寺に引山田鶴堂先生之墓と拜す 同少時

得拜煇福を敬し 鶴堂先生を好む 墓あり

進學院雄賢樓堂居士 文久元年六月二十八日 五十九歳

梅香院春顔妙次女大姉 明治四年未三月 六十七歳

莫前一拜せしめ坐臥の哀感を憶す 余十六歳より馬に以

照陽寺有尺袋堂幸為書而す 余其より見 鶴堂先生

今又原稿
三十九年
四月

父位牌を収めしむる予了思ふ莫きなり位牌を控ひ置
之を先生之字火中燒く位牌を佛殿より掘り出さるもの
なり先生大書之軍之野敵の首を解く一先
我輩其多事とて行先を宛に時秋社よりあり
我を上座を居て郷居ありし一今と距る二十九年あり
悦ふ一夢の如し今も先生死す二十年減不堪哀悼
あり先生孝子なり死す遂に不得志に今も立
一得者可憐可悲先生細長亦健好人多る予亦仰く
美有愛を受く先生之親友訪を夢より前夜八等
馬場下原百を訪告別大人之親友あり別々若む

予も又斯く細路を帰連大八高野河に北に松茸
と名産を尋ねて忠告ありし松茸を多し大子細路
帰路あり阿米川前をえ見送る我ら白子の神社内
を夜折る予の戒む要極感人何る表所の新道よりあり
者も予の行りる予一人の訣別あり
馬場尻邊に力堀を有して龍言書則が務に到。
加勢法隆の墓我々の華子門前より維新の世
に数百年たりたり予息者も東京に居たりは分給
均一萬の東京の世に流るる以て又予に福をせしむ
即銀本為係者なり法隆由上達なる烟世流るる様

高平郡山脈海老屋之宿

高平 宿白沢舊中陣

郡山曉發小原田日出山崎景旭紅七動
了望川台阿由隈川崎出山暴漲道路
大破換了須明向天吹了道白川
午餉芦野片天氣暴驟一瀟山光忽了不
見途中茅店幸鷓一羽了雲了白沢
宿白沢陣之宿了又推了水之鷓了幸以宿
子回營

十日雨

宿白沢之宿

七時若釋雨成。大雨降り影し或る
去月去好中伏し海草時古那河の雨
七時連河午餐陣敵手然ありしと去産
子宿ふり陽字宿る身地産る宿る

十日南風

馬車之父子出夜

其方淺草原山崎之宿了長政并板木
確太郎迎了来り了そと道茶屋之宿了休
息改し相了了宿完老母始了家一日了
事一吳并了宿山崎海老人乃宿了入来

米俸話
之
對
食
餽
之
始
末

匡等の言
ちるに
層々
口を
子に
少子
一連
國憲書
并伊
書
千載
妙、
誠心

若夫年有後世之公上一朝之君の幸年

二十四月月理

宮内出勤云河所新に攝、召伊世録は口方直方
に於出勤前口方直方、製係書製、征歌、
且鷹山、公、新一枚、贈、付、用、人、の、層、層、
の、公、の、無、理、参、朝、の、公、の、層、層、
の、公、の、無、理、参、朝、の、公、の、層、層、

吉井、の、公、の、無、理、参、朝、の、公、の、層、層、
の、公、の、無、理、参、朝、の、公、の、層、層、

上杉、の、公、の、無、理、参、朝、の、公、の、層、層、
の、公、の、無、理、参、朝、の、公、の、層、層、

天地者
非字

柄木、の、公、の、無、理、参、朝、の、公、の、層、層、

出、の、公、の、無、理、参、朝、の、公、の、層、層、

書、の、公、の、無、理、参、朝、の、公、の、層、層、

分、の、公、の、無、理、参、朝、の、公、の、層、層、

三、の、公、の、無、理、参、朝、の、公、の、層、層、

上、の、公、の、無、理、参、朝、の、公、の、層、層、

大、の、公、の、無、理、参、朝、の、公、の、層、層、

朝、の、公、の、無、理、参、朝、の、公、の、層、層、

興亞親睦會のりし九月捕りて吾等

二十日 火曜

宮内出勤事務所報告

昨来秋分付に集河谷先生出立し、近年の
此年中に義侠あり

米澤君が此年、日城外好士族の
標札打之りて、是は全國の此年中
ありし中、好士族の好士は、是れが社
ありし中、好士族の好士は、是れが社

山形君が好士族の好士は、是れが社

教育の好士族の好士は、是れが社

此の世に風習の好士は、是れが社

政治の上の好士は、是れが社

徳山仁君の好士は、是れが社

好士族の好士は、是れが社

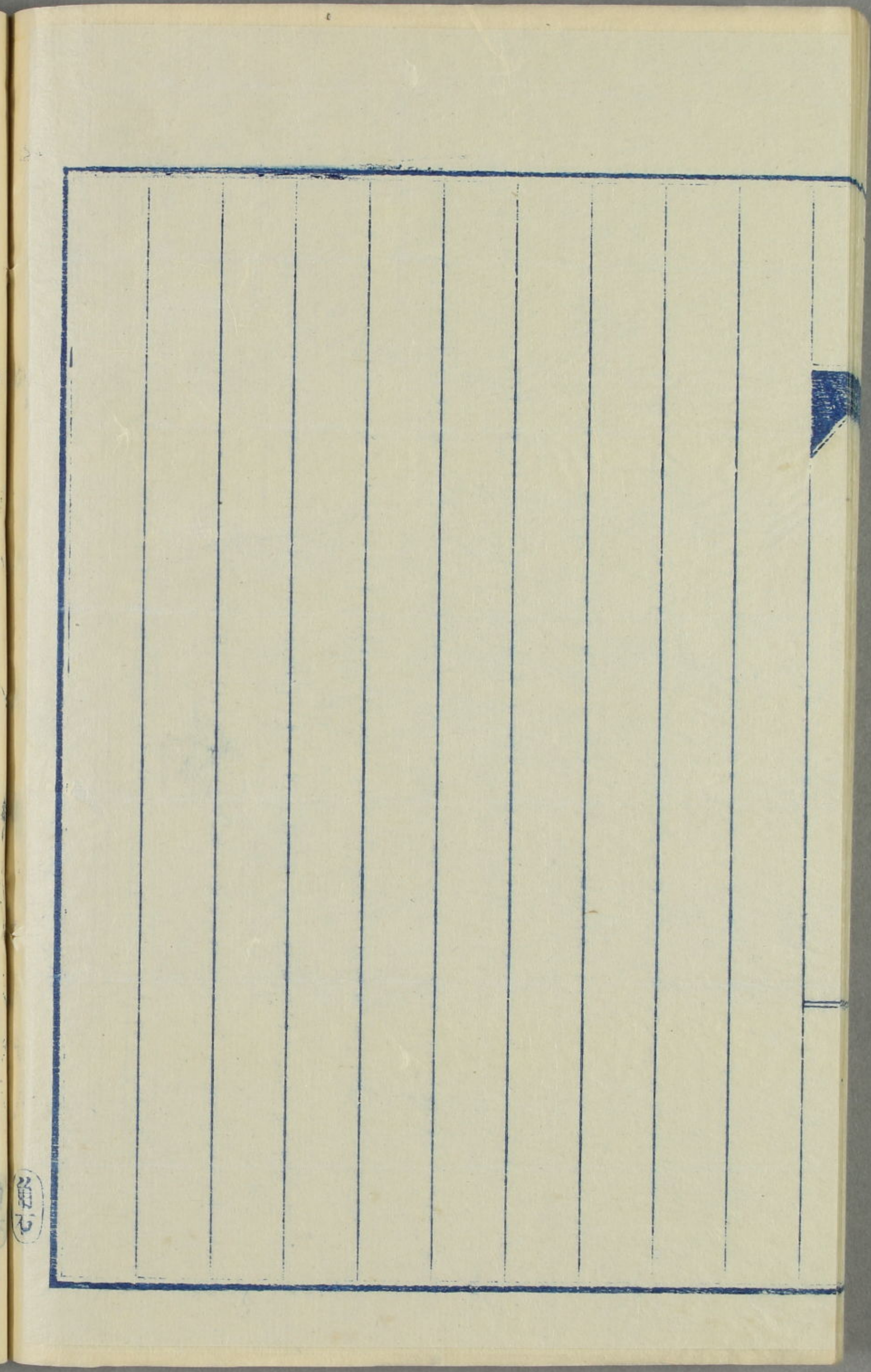
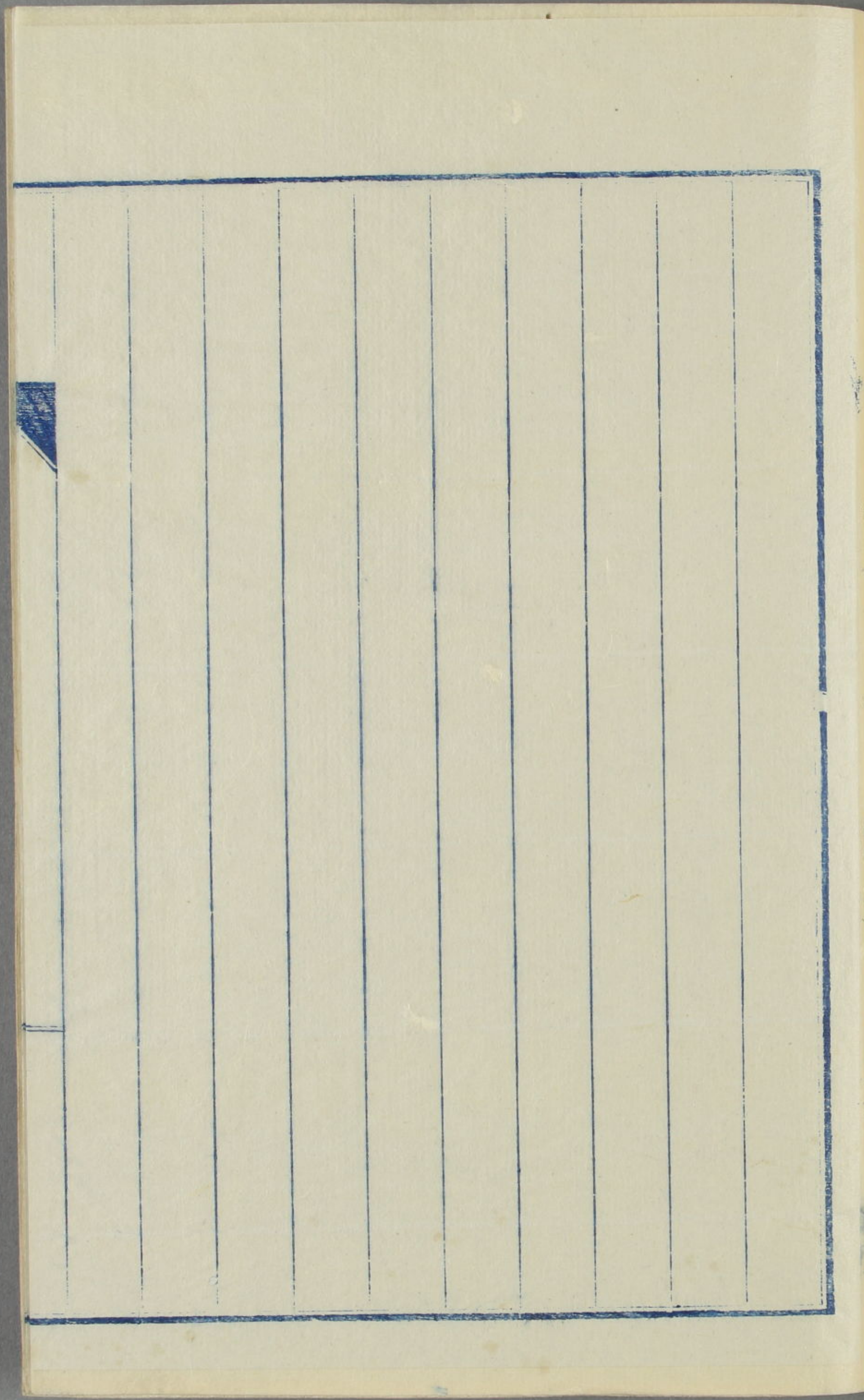
好士族の好士は、是れが社

稱信重は、是れが社

然るに、是れが社

白執所より拜賜し、若光君は、是れが社

片紙に、是れが社



一三四

堀尾とらふ

堀尾 弘光

一三四三十三

第 七

一三四三十三

堀尾 弘光

一二四 九月廿三日 古河より本郷と 泊り

一三四 九月廿六日 古河より本郷と 泊り

一三四 九月廿七日 古河より本郷と 泊り

一三四 九月廿八日 古河より本郷と 泊り

第七

一九四 九月廿九日 古河より本郷と 泊り

山形より本郷と 泊り

一六四 九月三十日 古河より本郷と 泊り

野村より本郷と 泊り

一七四 十月一日 古河より本郷と 泊り

松川より本郷と 泊り

一三四 十月二日 古河より本郷と 泊り

〇 系代

一三四 十月三日 古河より本郷と 泊り

〇 系代

一三四 十月四日 古河より本郷と 泊り

〇 系代

一三四 十月五日 古河より本郷と 泊り

〇 系代

一三四 十月六日 古河より本郷と 泊り

〇 系代

一三四 十月七日 古河より本郷と 泊り

〇 系代

一三四 十月八日 古河より本郷と 泊り

〇 系代

寬文九年 明石、泰山寺住持

四十九

延寶七年 大和郡山、美田山住持

五十八

延寶七年僧心越歸化

貞享四年 下總古河

松平 仁任

六十六

元祿四年 八月死

七十三

天和二年芥蘇水死
寶永三年仁齋死

